

「イロガワリというキノコ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

イロガワリ(イグチ科)は、見た目は非常に地味なキノコで、カラムツなどの落ち葉に身を隠していることが多いので、どちらかと言えば目立たないキノコと言えるだろう。



ほかのイグチ科のキノコとの見分けのポイントは、肉質が非常に硬いということだろう。特に写真のように若い子実体は、傘も茎も硬く、ちょっと触ってみればすぐにイロガワリだとわかる。



イロガワリの「色変わり」は極めて迅速である。切るとすぐに変色する。それも1~2分で色が変わるなんてものではなく、ほんの数秒で切った断面の変色が完了してしまう。一番難しいのは、切った直後の色の撮影だ。私は今までに何度も挑戦したが、その撮影に失敗していた。



静止画では、ナイフとカメラを持ち替える間に変色してしまう。そこで今回は動画で撮影して、その映像から写真を切り取ることにした。写真は切り込みを入れた直後で、黄色い断面が見えている。これがイロガワリ「本来の色」である。



急いで断面を開いたところ。確かに黄色いが、実はすでに変色が始まっている。切ってからわずか0.5秒ぐらいしか経過していない。



そのわずか1秒後、断面は見る見る青く変色する。まさに「イロガワリ」である。